

日刊建設工業新聞創刊85周年企画

建設コンサルタント  
インフラビジネス最前線

# ACKグループ

## 柔軟な経営戦略でシナジー効果高める

代表取締役社長 廣谷彰彦氏



「国内インフラ市場は今後、どうなるか」と見ているか。

「国民の関心は、従来型のインフラ整備のみではなく、災害に強い安全な国土づくりや地域活性化などへと多様化しています。ところが、発注者である国や地方公共団体は財政難により従来型のインフラ整備さえままならない状況に追い込まれています。技術系職員の減少は、インフラの維持管理に深刻な影響をおよぼしかねません。建設コンサルタントが従来の受託業務だけに自らの業務領域を限定してしまつては、多様化する国民のニーズに応えることはできないでしょう。市民、企業、発注者、施工者などステークホルダーの利害調整を行うというこれまでの役割に加えて、自らが投資して事業を形成することも考えなくてはなりません。CM方式の事業やPPP、PFIの事業に参画することが、社会インフラの新たな創造に貢献することになるのではないのでしょうか」

「東日本大震災の復興や第二次安倍晋三内閣の打ち出した国土強靱化計画などに

### 事業の間口を広げ継続的な成長を遂げる

「まず事業の間口を広げ、優秀な人材を受け入れられる企業グループになることが大事です。現在は海外事業の拡大に向け、グローバル人材の増員に取り組んでいます。3年後の16年9月期までには約1000人、20年までには1500人以上の増員を計画しています。また、年齢性別を問わず多様な感性を生かすことができるダイバーシティ企業を目指し、女性管理職の増員も進めています。3年後には約10人、20年までには15人以上の増員を計画しています。ダイバーシティ化を推進し、変化し続けるビジネス環境や多様化する顧客ニーズに迅速かつ有効に対応できる、活力ある企業グループと成長していきたいと考えています」

「M&Aや企業連携についてどう考えているのでしょうか」

「当社グループは、価値観を共有できる企業が参画することで規模と業容を拡大してきました。今後、経営理念を共有できる企業があれば、積極的にM&Aやライアンスによりグループの拡大を図っていくつもりです。ライアンスでは12年3月に、パナソニック型インフラ輸出という新たなビジネス分野に挑戦するため当社グループとパナソニックコンサルティンググループが出資する合弁会社「Innter Act（インター・アクト）」を設立しました。タイで民間案件を受注したに加え、案件形成に取り組むPPPプロジェクトが具体化するなど、成果を挙げつつあります」

「最近では、東南アジア諸国で鉄道関連分野の需要が高まっています。この分野で国内トップクラスの実績と技術力を保有するトニーコンサルティングと業務提携し、東南アジアをターゲットにした鉄道関連のコンサルティングサービスに本格参入することにしました。この業務提携は、20年の東京オリンピック開催も見据えたものでもありません。鉄道をはじめとする交通インフラに対するニーズの増大が予想される中、同社との協同で、提案力、技術力を今以上に高め、インフラ整備に貢献していくつもりです」

### ボスポラス海峡横断地下鉄 基本計画、入札・施工監理業務を担当



ボスポラス海峡横断鉄道のトンネル建設状況

今年10月29日、トルコ・イスタンブールにボスポラス海峡横断地下鉄が開通しました。ボスポラス海峡で分断されているイスタンブールのアジア側と欧州側を海底で結ぶ鉄道トンネルプロジェクトで、当初は2009年の開業に向けて大成建設JVで工事が進められていたましたが、歴史的遺構が見つかり、その遺跡調査のため、この日の開通となりました。オリエンタルコンサルタンツは日本のリードパートナーとして現地のコンサルタントと協力し、2002年3月からボスポラス海峡横断地下鉄と海峡の両側にある国鉄の改修工事で基本計画、入札・施工監理業務に携わりました。



これまで、ボスポラス海峡を横断する手段だった自動車の二つの吊り橋とフェリーは、渋滞や濃霧や降雪など気象の影響を受けやすいなどの課題があり、改善が求められていました。今回、地下鉄の開通によりフェリーで約30分を要していた移動時間が4分に短縮されるとともに、吊り橋の渋滞緩和、排ガス量の削減などの効果が期待されています。

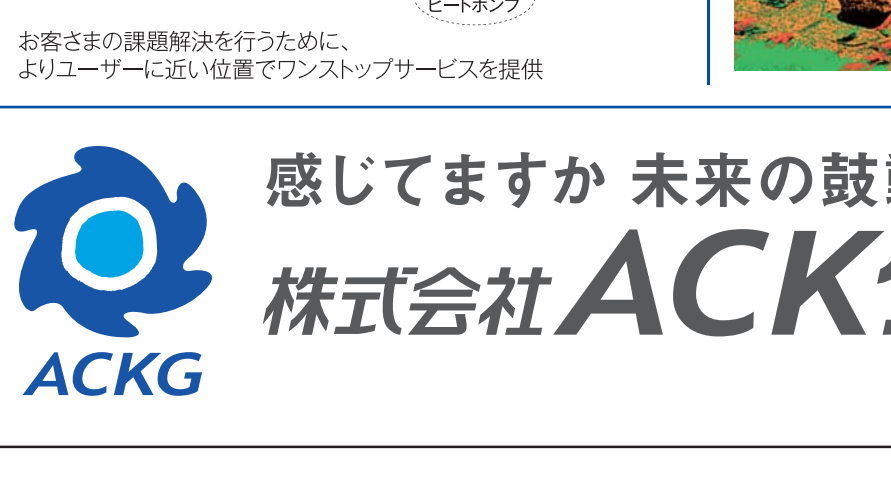


開通記念祝賀パーティでトルコ運輸大臣と握手する廣谷社長

同日の開通式にはトルコのエルドアン首相、安倍晋三首相ら両国首脳が出席し、1860年のオスマン帝国時代から構想されていた150年来の夢の完成を祝いました。

### 株式会社 オリエンタルコンサルタンツ

国内外の顧客のコンサルティング・サービスを通じ、デザインソリューション、国土基盤、都市、地域、交通、環境、防災、国際協力などのあらゆるフィールドで社会に貢献しています。



指定管理者として、Jリーグやラジオ局等も含め、多様な市民を主体とした公園を管理運営（群馬県立敷島公園）

## チェンジとチャレンジで業務領域を拡大

「06年にACKグループを創立して以降、何をグループ戦略の軸にしてきたのでしょうか」

「当社グループの強みは、経営の柔軟性にあります。06年のグループ創立以来、常に社内外の環境を分析して中長期計画を継続的に打ち出してきました。グループ創立時の経営計画「ACKG ONE」では、グループシナジーの強化と個々の事業会社の成長によるワンストップサービスの実現を打ち出しました。10年9月に策定した中長期経営戦略「ACKG2010」では、国内公共主体から海外、国内民間に事業範囲を拡大した国内公共、海外、国内民間の3軸による安定経営の実現に取り組まれました。12年9月に策定した中期経営計画「ACKG2013」では、社会インフラ創造企業をスロガンに、受動型ビジネスから主導型ビジネスへ転換する「チェンジ（変革）」と、自らが投資することで事業者としてインフラビジネスを推進する「チャレンジ（挑戦）」を経営戦略の軸に据えました。さらに、グローバル人材の育成や、女性管理職の増強を含めたダイバーシティの実現など様々な取り組みを進めています」

「国内の公共投資が縮小し続けた時期にもかかわらず創立から8年で約2倍の売り上げ規模に成長することができました。今後は、ACKG2013をさらに推進し、目標として掲げた20年の売上高500億円、営業利益率4・0%の実現を目指します」

「事業領域の拡大には人材育成が不可欠です。まずは事業の間口を広げ、優秀な人材を受け入れられる企業グループになることが大事です。現在は海外事業の拡大に向け、グローバル人材の増員に取り組んでいます。3年後の16年9月期までには約1000人、20年までには1500人以上の増員を計画しています。また、年齢性別を問わず多様な感性を生かすことができるダイバーシティ企業を目指し、女性管理職の増員も進めています。3年後には約10人、20年までには15人以上の増員を計画しています。ダイバーシティ化を推進し、変化し続けるビジネス環境や多様化する顧客ニーズに迅速かつ有効に対応できる、活力ある企業グループと成長していきたいと考えています」

「M&Aや企業連携についてどう考えているのでしょうか」

「当社グループは、価値観を共有できる企業が参画することで規模と業容を拡大してきました。今後、経営理念を共有できる企業があれば、積極的にM&Aやライアンスによりグループの拡大を図っていくつもりです。ライアンスでは12年3月に、パナソニック型インフラ輸出という新たなビジネス分野に挑戦するため当社グループとパナソニックコンサルティンググループが出資する合弁会社「Innter Act（インター・アクト）」を設立しました。タイで民間案件を受注したに加え、案件形成に取り組むPPPプロジェクトが具体化するなど、成果を挙げつつあります」



### 株式会社 エイテック

豊富な経験に裏打ちされた設計技術、現場管理技術、交通分析技術、空間情報技術に加え、ICTを活用した構造物モニタリングなどの新技術を融合させた幅広いサービスの提供を行っています。



「PPP（官民連携）」手法を活用した太陽光発電の事業形成、事業経営を主導（山梨県南アルプス市）

感じてますか 未来の鼓動  
株式会社 ACKグループ

〒151-0071 東京都渋谷区本町三丁目12番1号 住友不動産西新宿ビル6号館  
TEL: 03-6311-6641 FAX: 03-6311-6642  
ACKG 検索

ロゴマークの意味  
「知」を核とし、決まった型にはまらず、時代の変化に応じて自由に業容を変えながら仲間を募り広がっていくことを示しています。